

自己評価シート(令和5年度)

恵大保育園

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、恵大保育園では毎年自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後も保育内容等の充実を図ってまいります。

評価: 次の基準によって、評価欄にA・B・C・Dと記入する。

- A…十分わかる、十分できている B…おおむねわかる、おおむねできている
C…あまりわからない、やや不十分 D…ほとんどわからない、改善を要する

【第1章】総則

1 保育所保育に関する基本原則

	評価項目	評価 8月	評価 3月
保育所保育指針	①保育所保育指針に日ごろから目を通すようにしている。	C	C
保育所役割	①子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを理解している。	A	A
	②子どもの人格尊重を意識して保育を行っている。	A	A
	③「保育の目標」を達成するために「ねらい」があり、「ねらい」をより具体的にしたもののが保育の「内容」であることを理解している。	A	A
	④子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう、必要な事項に配慮して保育を行わなければならないことを理解している。	A	A
保育の方法	①子ども一人一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うよう心掛けている。	A	A
	②子ども主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を心掛けている。	A	A
環境	①健康的に過ごせるよう、保育活動の配分に気をつけている。	A	A
社会的責任	①個人情報に適切に扱い、保護者の苦情に対し解決策を図るよう努めている。	A	A

2 養護に関する基本的事項

養護の理念	①養護と教育を一体的に行うことを意識して保育に当たっている。	B	B
	②「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している。	A	A
生命の保持	①一人一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる。	B	A
	②生理的欲求が十分に満たされるようにしている。	B	A
情緒の安定	①子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くよう心掛けている。	A	A
	②自分の思いや意見をはっきり伝えることができるよう配慮し、尊重している。	A	A

3 保育の計画及び評価

指導計画の作成	①日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている。	B	B
	②各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A	A
	③日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	B	A
	④3歳未満児は、一人一人の子どもの発達状況、保育計画、生活状況について作成している。	A	A
	⑤子どもが主体的に活動できるよう環境設定している。	B	B
指導計画の展開	①子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている。	B	A
評価改善	①毎日の終わりに、保育を振り返り、コドモンの『今日の気づき・振り返り』を確認(記入・申請)している。また、次の日の計画を確認(記入)している。	A	A

4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

資質能力	①育みたい資質、能力を理解している。	B	B
	②長期的な見通しをもった計画を立て、年齢ごとに必要な経験の機会を与えている。	B	B
姿	①「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」 ^{注1)} を理解し計画を立て、保育にあたっている。	B	B

注1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 共同性 エ 道徳性・模範意識への芽生え オ 社会生活との関わり カ 思考力の芽生え
キ 自然との関わり・生命尊重 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言葉による伝え合い

【第2章】保育の内容

1 乳児保育に関わるねらい及び内容 (0歳児担当者記入)

	評価項目	評価 8月	評価 3月
基本的事項・ ねらい及び内容	①離乳食については、家庭や調理師、栄養士と連携を取りながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。	A	A
	②特定の保育士との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	A	A
	③一人一人の生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている。	A	A
	④午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸のSIDSチェックを5分ごとにし、記録している。	A	A
保育の実践に 関わる配慮事項	①生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせて様々なものに触れさせている。	A	A
	②上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている。	A	A
	③おもひの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している。	A	A
	④発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている。	A	A
	⑤誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している。	A	A

2 1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容 (1、2歳児担当者記入)

健康	①生活リズムについては、一人一人の子どもの状態に合わせて対応している。	A	A
	②走る、跳ぶ、登る、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている。	A	A
	③楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている。	A	A
	④身の回りを清潔に保つ心地良さを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している。	A	A
	⑤子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している。	A	A
	⑥一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている。	A	A
人間関係	①保育士等の安心した関わりの中で、園生活を送れるようにしている。	A	A
	②他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけられるよう仲立ちをしている。	A	A
	③自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している。	A	A
環境	①玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合ったものを選び使用させている。	A	A
	②積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している。	A	A
	③見る、聞く、触れるなどの感覚の動きを豊かにしている。	A	A
言葉	①楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやりとりができるようにしている。	A	A
	②絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A	A
表現	①水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しませている。	A	A
	②音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	A	A
	③子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	A	A
保育の実践に 関わる配慮事項	①体の状況、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分行うことで感染症を予防している。	A	A
	②事故防止に努めながら様々な遊びを取り入れている。	A	A
	③午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸のSIDSチェック(1歳児10分、2歳児15分ごと)をし、記録している。	A	A
	④進級などで保育士が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している。	A	A

3 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容 (3、4、5歳児担当者記入)

健康	①生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している。	B	A
	②食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	B	A
	③十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	B	A
	④園内外の危険な場所を知り、安全に気をつけて遊ぶように働きかけている。	B	A
人間関係	①友達と共通の目的を見つかったり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるよう働きかけている。	A	A
	②良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できるように援助している。	B	A
	③友達と生活する中で決まりの大切さに気づき守れるように配慮している。	B	A
	④生活や遊びの中で、意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉かけや援助をしている。	B	A
	⑤身近な友達との関わりを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している。	B	A

	評価項目	評価 8月	評価 3月
環 境	①園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	B	A
	②伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	B	A
	③自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	B	A
言 葉	①人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につけさせている。	B	A
	②絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気づくように心掛けている。	B	B
	③子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように配慮している。	B	A
表 現	①音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を作ったりする楽しさを味わう機会を作っている。	B	A
	②一人一人の子どもの表現の過程を大切に、自己表現を楽しめるよう心掛けている。	B	A
保育の実践に 関わる配慮事項	①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ^{注1} を理解し保育にあたっている。	B	B
	②幼児期の体を使った遊びが、単に運動機能の獲得だけではなく、心の発達などへも影響を与えることを理解している。	B	A

4 保育の実施に関して留意すべき事項

保育全般に 関わる配慮事項	①一人一人の子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助している。	A	A
	②子どもが安心感を持ち、生活できるようにしている。	A	A
小学校との連携	①小学校との意見交換の機会などを設けて情報共有や連携を図っている。	B	A
	②子どもにおける情報共有に関して保育所児童保育要録を作成している。	B	A
地域社会との 連携	①地域向けの園だよりで、園の様子や行事などについて地域の人々に見てもらえるようにしている。	B	B
	②ボランティア、体験保育の人々を受け入れている。	A	A

【第3章】健康及び安全

1 子どもの健康支援

健康発達	①感染症発生時に、発生状況や感染予防策について保護者に通知している。	A	A
	②不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携対応している。	A	A
健康増進	①健康診断と歯科検診、尿検査の結果について、保護者や職員に伝達している。	A	A
	②子どもの健康情報を共有し、子どもの既往歴(アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など)について、すべての職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている。	A	A
疾病等への対応	①アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、医師の診断を得て、適切な対応を行っている。	A	A
	②アレルギー疾患を持つ子どもに対し、保育士、栄養士、調理員と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A	A

2 食育の推進

保育所の特性を 生かした食育	①乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	A	A
	②乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食器具の持ち方など食事のマナーを伝えている。	A	A
	③コドモンで年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている。	A	A
環境整備	①調理員、栄養士、保護者と連携をもち、個々に合わせた対応を行っている。	A	A
	②子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心掛けている。	A	A

3 環境及び衛生管理並びに安全管理

環境及び 衛生管理	①園内の清掃がなされ、玩具等の消毒を定期的に行っている。	A	A
	②生活の場面にあった保育士の声、音楽など音に配慮している。	B	B
	③園内に子ども達が季節感を味わえるような工夫をしている。	B	A
	④子どもが活動しやすいように保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している。	A	A
事故防止 及び 安全対策	①ヒヤリハットを共有し事故防止に努めている。	A	A
	②睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	A	A
	③外部からの侵入に対し、適切な対応がとれる。	B	B
	④園庭の危険物の排除や固定遊具の点検などを常に行っている。	A	A

4 災害への備え

安全確認	①消火器、火災受信機の設置場所が分かり、操作方法を知っている。	A	A
	②施設の安全点検を行い、改善している。	A	A
避難への備え	①様々な災害を想定したり、毎月消火避難訓練を行っている。	A	A
	②保護者との連絡体制や引き渡し方法を確認している。	A	B

【第4章】子育て支援

1 保育所における子育て支援に関する基本的事項

	評価項目	評価 8月	評価 3月
支援と留意事項	①保育士は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	A	A
	②保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛けている。	A	A

2 保育所を利用している保護者に対する子育て支援

保護者との相互理解	①送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加え、別に機会を設けて相談に応じたり個別面談を行っている。	A	B
	②家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	A	A

3 地域の保護者等に対する子育て支援

避難への備え	①様々な災害を想定したり、毎月消火避難訓練を行っている。	A	A
	②保護者との連絡体制や引き渡し方法を確認している。	A	B
連携	①地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている。	A	A

【第5章】職員の資質向上

1 職員の資質向上に関する基本的事項

保育所職員の求められる専門性	①相手の立場に立った挨拶、電話、来客者対応が出来る。	B	A
	②自己の健康管理が出来る。	A	A
	③保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A	A
	④保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	A	A
質の向上に向けた組織的な取組	①業務遂行にあたって、正確、迅速かつ、報告・連絡・相談を実践している。	B	A
	②公平に人の話を聞いたり、話ができ、正確に伝達できる。	A	A
	③問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力している。	A	A

2 職員の研修等

研修の活用	①積極的に研修会に参加し、新たな課題と情報の収集をしている。	A	A
-------	--------------------------------	---	---

【第1章】総則

1 保育所保育に関する基本原則

- ・保育指針は目を通す必要があることは分かっているが、研修の時のみになっている。年に1度は園内研修に取り入れりことでもっと意識できるのではないかと思う。
- ・子ども達一人ひとりの個性を生かしていけるような環境、配慮を常にしていく。
- ・保育指針に目を通していきたい。
- ・保育指針をすぐに目を通せるよう保管しておく。
- ・園内研修で指針に基づいた内容を行うことで目を通すきっかけになるのではないか。
- ・保育所保育指針は研修で取り上げられたとき耳にするくらいで自分から確認したことがないため、心掛けてはいきたい。
- ・保育所保育指針に日頃から目を通したいと思っているがなかなか実行できずにいる。
- ・遊びを制限しているところがあり、主体的な活動を促すことが難しい。
- ・再度保育指針に目を通すよう意識し、保育方法を見直すようにしていく。
- ・保育雑誌や専門書などを見て援助の仕方、対応の仕方を勉強する。
- ・環境構成をもっと工夫し、子ども主体の保育を行えるとよかった。
- ・前回の課題を改善されていないところが反省点である。
- ・1人ひとりの発達や成長を見ながら個々に合わせた玩具などの提供をする時間が少なかった。

2 養護に関する基本的事項

- ・子どもの気持ちを代弁し、思いを伝えていく。
- ・子どもの変化に常に気をつけている。
- ・常に意識して行動する。
- ・一人ひとりと余裕を持った関わりを心掛ける。
- ・0歳児クラスと言うこともあり一対一の関わりを築けるよう心掛けている。
- ・養護・教育を一体的になど言葉にすると難しく感じた。
- ・今年度はフリーという事で色々な子ども達と関わる中で信頼関係をつくっていくことができ良かった。
- ・「今から〇〇しようね」と子どもに断りをいれるなど、1人の人間として気持ちを尊重して関わるようにしている。
- ・8月と比べると子どもの発達や健康状態をより把握出来る様になった。
- ・養護に関して、理解しているつもりでも、普段の保育で出来ていない部分があるため、日頃から子どもとの関わり方を定期的に振り返り見直すようにする。

3 保育の計画及び評価

- ・子どもにあった指導計画を考え振り返りまでしっかり考えていく。
- ・子どもの変化など保育者同士で共有する。
- ・発達にあった指導計画をしているつもりだが、これで良いのかなと思うことがある。
- ・主の先生と話し合い計画している。
- ・指導計画に目を通し、確認していないことがあるのでしっかりと目を通すようにする。
- ・子ども達の状況に応じた指導計画になるよう意識し、環境を設定していきたい。
- ・絵本を置いたり、すぐに玩具を出せたりする環境をつくるとより主体的に活動ができたと思う。

- ・夏は水遊び、泥遊び、色水遊びなど取り入れた。
- ・園外散歩を通して、季節の変化感じられる遊びを取り入れている。

4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

- ・10の姿を理解して保育に生かせるようにする。
- ・毎日10の姿を理解して保育に当たれていない為、気持ちを引き締める。

【第2章】保育の内容

1 乳児保育に関わるねらい及び内容（0歳児担当者記入）

- ・離乳食開始の時には給食会議をしっかりと話し合うようにしたことでお互いに情報を共有できている。
- ・睡眠時も大きな音がする事が多いので、なるべく静かに眠ることが出来る様な部屋の配置にしたい。
- ・遊びを通じた援助に関しては、保育士が主導する活動になりすぎないように意識する。
- ・部屋の構造上、午前寝は他クラスの活動中とかぶるため、静かな空間の確保が難しかった。
- ・後半になり、個々の様子を見ながらトイレトレーニングを開始でき、無理なく進めることも出来た。

2 1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容（1，2歳児担当者記入）

- ・夏は、色水遊び、どろんこ遊び、ゼラチン、小麦粉粘土、氷遊びを行った。
- ・信頼関係をしっかりと構築出来て、安心して過ごせるように努めている。
- ・体調を崩しているときはこまめに体温を測ったり、体調に気に掛けながら過ごしている。
- ・自分でしようとする姿を見守り、出来た喜びを味わえるようにしている。
- ・自我を大切にしながら関わりを知らせていきたい。
- ・子ども一人ひとりにあった援助をしていく。
- ・なるべく子どもの話を聞いて無理強いしないよう、やる気が出るような声かけをするよう心掛けている。

3 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（3，4，5歳児担当者記入）

- ・幼児期の終わりまでに育てたい姿などは理解できていない。確認してみようと思った。
- ・お当番やお手伝いを通して、相手との言葉のやり取りや片付け方などを経験できる様に心掛けている。

4 保育の実施に関して留意すべき事項

- ・それぞれの個性に合わせた関わりが必要なことは理解しているが不十分なところも多いので日頃から関わり方を意識するようにする。
- ・子ども達が安心して過ごせるよう、一対一でじっくりと関わる時間を設けている。
- ・今年度は高校生のボランティアやインターンシップを受け入れていた。

【第3章】健康及び安全

1 子どもの健康支援

- ・担当保育士等から主任へ、主任から園長、園長から関係機関へと連携がしっかりとれているように思う。
- ・対応はしていないが、情報は報告している。
- ・アレルギー、熱性痙攣がある子の職員の共有はしている。
- ・いつもと様子が違うときにはクラス担当と情報を共有したり、また看護師にも診てもらおう。
- ・子どもの体調の変化をしっかりと職員間でも伝えるようにしている。
- ・保健便りで通知している。

- ・子どもに多い急変症状、早期発見のポイント、けがの応急処置法を分かりやすく「見える化」するため各クラスに配置して誰でも出来る様にしたいと思っている。
- ・園で子ども達の疾患やアレルギーのことは共有出来ているので、対応などをもう一度しっかり確認しておく。

2 食育の推進

- ・家庭とも連携を取りながらご飯の形状をしっかり話し合っている。
- ・夏野菜を育てる。
- ・年齢やその子に合わせた形状を提供出来るようクラスや給食室とも声を掛け合って、様子や情報を共有出来ている。
- ・給食時、介助するときはスプーンの持ち方やお茶碗の持ち方、姿勢など伝えている。
- ・椅子に座った際に足がついていない子が多かった為、踏み台を作って工夫した。
- ・園として、今年度は離乳食の進め方や食材表など色々と見直して改善できたと思う。
- ・食事のマナーについては、気になる点が多くなっているように感じる。
- ・食材表でチェックのついていないアレルギー食材を保護者に聞くときはコドモンにもきちんと残すようにしている。

3 環境及び衛生管理並びに安全管理

- ・事故に繋がる様なものであれば、その都度会議を開き、職員全体で事故防止に努めている。
- ・年に1度、防犯訓練を行っているが、女性だけの職場と言うこともあり、不安な部分はたくさんある。様々な事を想定し、日頃から取り組んでおく必要があると感じる。
- ・0歳児は口に入れる事が多い為消毒は毎日気をつけている。
- ・未満児はクラスが一緒の為、どうしても周りの声や音が入ってきてしまうので落ち着いた環境を作ることが難しい。良い環境を作ることが難しい。良い改善策があれば取り入れたい。
- ・毎日消毒を行う。
- ・季節にあった部屋飾りを作る。
- ・その日遊ぶ玩具が年齢にあっているのかを考慮し、サイズの小さい物は避けておくなど合同保育の際も気をつけるようになった。
- ・SIDSチェックの重要性を研修で再確認したり、他園での事故を職員で共有して気をつけるようにした。
- ・今まで外部からの侵入がない為対応に自信がないが、どのようにすべきなのかは把握している。
- ・子どもの製作物を飾る。園内や園周辺で見つけたものを飾る。
- ・子ども達が過ごしやすい環境であると共に、安全な環境作りが出来る様に部屋や戸外に危険がありそうな所は事前に確認し、対応を共有する。

4 災害への備え

- ・消火器の操作方法は7月に水消火器を使って行った。
- ・保護者との連絡体制や引き渡し方法を確認して、必ず知っておく必要がある。
- ・毎日確認、その都度確認を行う。
- ・園外への避難訓練があったのは良かった。
- ・機器の設置場所や使用方法を確実に理解していないので、再度確認する。

【第4章】職員の資質向上

1 保育所における子育て支援に関する基本的事項

- ・傷等あれば報告し、保護者との普段のやり取りで気になることはないかを気づけるよう心掛けている。
- ・8月に比べ、保護者とより情報共有出来る様になった。

2 保育所を利用している保護者に対する子育て支援

- ・得た情報は必ず報告、連絡、相談するよう心掛けている。

3 地域の保護者等に対する子育て支援

- ・避難訓練時にクラスでの動きを事前に確認するようにしている。
- ・毎月の避難訓練は職員間で連携して取り組めた。
- ・災害時が起きたときの引き渡し方法などの確認が出来ていない。

【第5章】職員の資質向上

1 職員の資質向上に関する基本的事項

- ・個人的には実践できているが、園全体で見たときに報告や連絡等がないことが多々ある。会議でも全体に気をつけるよう呼びかけてはいるがなかなか実践出来ていないのが現状である。
- ・規則正しい生活を心掛ける。
- ・保護者からの意見等があるとクラス担当や主任などに報告しお互い情報を共有した。
- ・今年度は体調を崩す事が多かった為、しっかりと自己管理していく。
- ・自分では出来ているつもりでも不十分な所は多々あると思うので、他者にも意見を聞き見直していくようにする。
- ・子どものプライバシーは保育園以外では発言しない。

2 職員の研修等

- ・研修を受ける機会が増えた。
- ・研修に参加出来ないことが多かったので機会を増やしていく。
- ・研修があるときは積極的に参加が出来た。

備考

- ・指導計画や日誌に関しては、理解しているかどうかで評価した。
- ・指導計画の作成や保育の内容など自分がしていないことについては、そう言うことをしていることを理解しているかどうかを書いた。保育に関しての理解がまだ十分ではないので今後勉強していきたい。
- ・フリーとなり、大変のあるが色々なクラスの子と関わる楽しさもある。クラスがスムーズにまわるよう自分から気づいていけるよう心掛けたい。
- ・フリーということもあり、空いた時間を見つけ花壇の手入れを自主的に行った。訪問された方が気持ちよく感じられる様引き続き取り組んでいきたいと思う。
- ・体調不良や手術などで保育や研修に出れないことがあった。日頃からの体調管理をしっかりとしていきたい。
- ・今年一年いろんなリスクがある0歳児クラスの担当になることで午睡、食事についてたくさん見直すことができた。離乳食については上手く進めてない家庭が多くいたが、給食の先生と連携を取りながら保護者もふくめお互いに情報を共有することが出来たように感じる。自分の保育を考え直す事ができた1年になった。
- ・自己評価を行った事で自分の出来ていなかったこと、意識していなかったことが再度明確になった。良かった点は継続し、反省点は改善してよりよい保育を行っていきたい。